

“農”と“人”をつなげる

わ 和歌山が人 か や マ ガ ジン

2026.1
Vol.16

今年も登場！ブランドミニトマト3種類



ミニトマト(JAわかやま)

3種類のブランドミニトマト、赤糖房(あかとんぼ)・優糖星(ゆうとうせい)・王糖姫(おとひめ)

<アンケートは[こちらから](#)>

(所要時間:3分程度)



「こんなのが
読みたい！」
「あれ面白かった！」
などのご意見や感想
お待ちしております！

農林水産省
近畿農政局和歌山県拠点

甘さ、極まる！ 3種類のミニトマト

温暖な気候に恵まれた日高地方はミニトマト栽培が盛んです。

厳しい検査基準を設け、生産者間で切磋琢磨しながら、糖度や食味を追求しています。

一般的なミニトマトの糖度は4～6度ですが、日高地方のミニトマト「王糖姫」は糖度7度以上の甘さと酸味のバランスが魅力。「優糖星」は8度以上で濃厚な甘み、そして「赤糖房」は驚きの8.5度以上の甘さを誇ります。どちらも生産者の方々がたっぷり詰まった逸品です。

毎年楽しみにしているファンも多いというブランドミニトマト。ぜひ食べ比べて、あなたの“推しトマト”を見つけてみませんか？

甘~いミニトマト、販売中！！

和歌山県日高郡印南町印南261-1
JAわかやま フレッシュマート
0738-42-1356



お問合せ
はコチラ



<https://life.ja-group.jp/farm/market/detail?id=251>
(外部リンク)

感動の甘さのミニトマト3種類が
今年も登場しました！！



※近畿農政局和歌山県拠点職員のアンケート結果をまとめました。

で、食べたら
こうだった！

赤糖房

- ・甘い、果物みたい！
- ・果皮が柔らかく、食べやすい
- ・トマト嫌いだけど美味しい！

優糖星

- ・噂どおり、甘くておいしい
- ・トマトと思えない美味しさ！
- ・噛んだ時、弾ける食感が良い

王糖姫

- ・癖がなく、スッキリした感じ
- ・食べやすく、食べ応えがある
- ・甘みと酸味のバランスが良い

中田の棚田の再生活動が農林水産大臣賞に！

「小川地域棚田振興協議会」は、令和7年度豊かなむらづくり全国表彰事業(近畿ブロック)で農林水産大臣賞を受賞しました。

同協議会は、長年耕作放棄地となっていた「中田の棚田」の再生活動に取り組み、棚田の歴史や景観、米作りを次世代に伝えるため、多くの関係者と連携して棚田復元や教育・体験活動、伝統文化の継承などのむらづくりを実践し、棚田地域の持続的な発展、関係人口の増加に寄与しています。



がんばる農業者紹介

「毎年が1年生」。極上の甘さのブランドミニトマトを守り続ける情熱と覚悟

印南町の為橋(ためはし)秀隆さんは、農協勤務を経て、令和2年に農家に転身し、ブランドミニトマト「赤糖房」を守り続けています。

甘くて美味しい実を作り続けるには、日光・温度・水を厳しく調整



ハウス一面に揃ったトマト房



する必要があり、経験と熟練した技術で、日々栽培に取り組んでおられます。

「毎年が1年生」。初心を忘れず、品質向上に努め、消費者に最高の味をお届けしています。

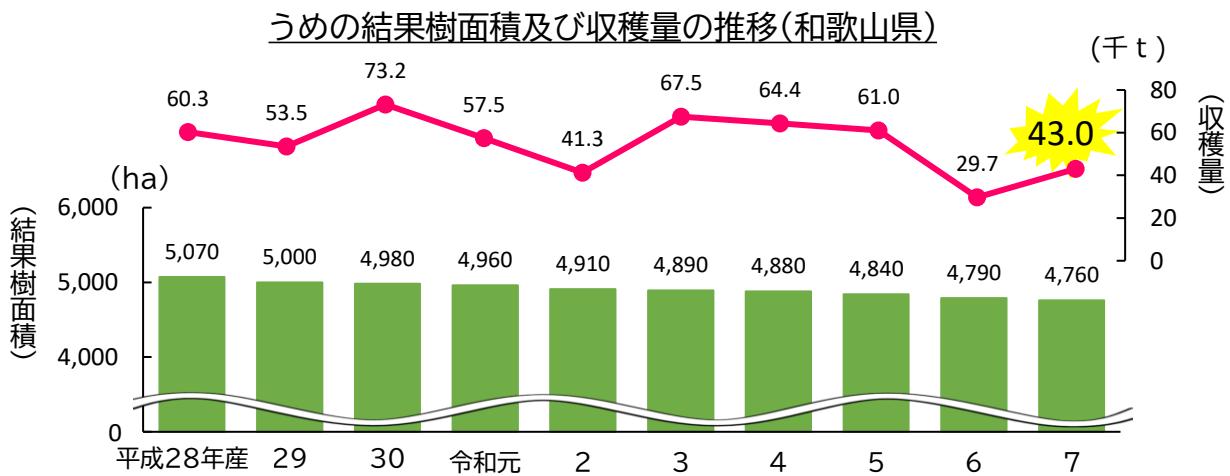


がんばる農業者の詳細は[こちら](#)

和歌山県の令和7年産うめ

61年連続全国1位の収穫量

~受精不良や降ひょう被害にもかかわらず、全国収穫量の58%を占める~



資料:農林水産省近畿農政局 令和7年11月25日公表「近畿における令和7年産うめ収穫量等の概要(和歌山県)」

結果樹面積とは、栽培面積のうち、栽培農家が果実を収穫するために結果させた面積をいいます。

全国版の詳細は[こちら](#)(PDFが開きます)
令和7年11月25日公表「令和7年産びわ、とうとう、うめの栽培面積、結果樹面積、収穫量及び出荷量」
(農林水産省大臣官房統計部公表資料)



「ゼロからの挑戦！」
若い力で有田みかんを守っていく

有田市の「竹内農園」で、温州みかんや清見オレンジなどを栽培する竹内算浩さんは、収穫ばさみ1本で就農しました。

持ち前の行動力や熱心な仕事ぶりが、地域から評価され、徐々に農園を拡大しました。



鳥害対策では、園地に鷹を飼育しています。鷹がいると害鳥は近寄らなくなるようです。



ハリスホークの
ロープロスちゃん
(メス・11か月)

「やりたいと思うことは全部やりたい。そのための努力は惜しまない」竹内さんの挑戦はこれからも続きます。



がんばる農業者の詳細は[こちら](#)

令和8年度農林水産関係予算の概算決定について

2兆2,956億円で概算決定。

※昨年度(2兆2,706億円)より250億円増加

新たな食料・農業・農村基本計画を踏まえ、農業構造転換集中対策を着実に実施しつつ、食料安全保障の強化、農業の持続的な発展、農村の振興、環境と調和のとれた食料システムの確立等に向けた農林水産政策を推進し、農林水産業の持続可能な成長を実現。



詳しくは農林水産省Webサイトへ

<7つの柱(重点事項)>

- 食料安全保障の強化
- 農業の持続的な発展
- 農村の振興
- 環境と調和のとれた食料システムの確立
- 多面的機能の発揮
- 2050年ネット・ゼロ等に貢献する
「森の国・木の街」の実現に向けた
森林資源循環利用施策の総合的な展開
- 海洋環境の激変に適応するための
水産業の強靭化

年末年始こそ牛乳を！

毎年、年末年始と春先に牛乳の消費量が減少し、生乳余りが発生していることを背景に、2022年6月、農林水産省と一般社団法人Jミルクが「牛乳でスマイルプロジェクト」を立ち上げました。

牛乳・乳製品の魅力を再発信し、酪農経営の支援と健康的な食生活への貢献を目的に、官民連携で年間を通じて消費促進イベントや情報発信を行う取り組みです。

この機会に、食卓に牛乳を取り入れてみてはいかがでしょうか。

令和7年11月21日(金)の記者会見では、鈴木憲和農林水産大臣が牛乳を飲む一幕も



農林水産省ウェブ
サイトへリンク

TOPICS ~こんなあるでえ~



よいしょ！



// がんばって！！ //

和歌山城の二の丸庭園近く「裏坂」入口にある、知る人ぞ知る”お城のちいさな住人”。正体は、石段の隙間から現れた大木の根っこ。一生懸命石段をよじ登ろうとしている懸命な姿がとても愛らしく、思わず「頑張れ！」と応援したくなります。

和歌山城を訪れた際には、立派な天守閣はもちろんのこと、小ネタのひとつとして探すのも楽しいですよ。

とても可愛い姿に癒されます。

農林水産省のWebマガジン「aff」をご紹介！

aff12月号は、森林の恵みを守り生かし、上手に育てながら賢く使うための研究をする森林総合研究所の特集です。研究所の概要や職員へのインタビュー、研究内容に加え、支所となる多摩森林科学園についても紹介しています。連載コラムは、「日本の年中行事と食」として、大晦日の歴史や年越しそばを食べる習慣を掲載しています。



農林水産省の
Webマガジン「aff」は
こちらから！

発行・編集

近畿農政局和歌山県拠点

〒640-8143 和歌山市二番丁3 和歌山地方合同庁舎5階

TEL:073-436-3831

バックナンバーはこちらから

